



[中高一貫・全寮制・男女共学]

沖縄三育中学校

[学校案内]



神に仕え人に奉仕する

三育教育とは、人の中に創造主のみかたちを回復するという使命に従い、
人の身体性、精神性、霊性、社会性の調和のある開発を行い、
与えられた全生涯の期間に渡って、神に仕え人に奉仕する人物となることを目指します。




Do for Others in Christ



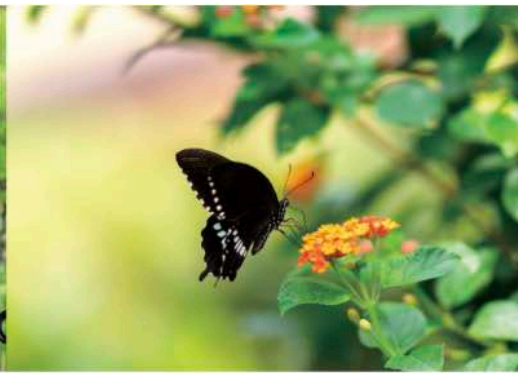
学校長 栗山 裕介

校長メッセージ

本校は、キリスト教主義の全寮制の学校です。すべての教育活動において、イエス・キリストが私たちの罪のために自ら十字架に架かってくださった生き方に倣って、「隣人愛」を意識したカリキュラムを設置しています。人の喜びを喜び、痛みを共に痛み、互いに励まし合いながら切磋琢磨する経験を通して、子どもたちは大きく成長します。本校における最大の特徴である「全寮制教育」では、自分と異なる他者との出会いを通して自らの価値観が広がり、基本的な生活習慣を身に付けることで自立心が培われていきます。また、「労作教育」や「農業体験」を通して、汗を流して働くことを通して、誰かの役に立つことに喜びを感じることができ、生徒を育てることを目指しています。本校で学ぶ生徒たちは、神様から与えられた大切な存在であり、一人ひとりに与えられた能力を、人の喜びを作り出すために用いることができるように育てていくことが、私ども教職員に与えられた使命であると考えています。



「幸せ教育」を目指します
私たちが、沖縄三育中学校は

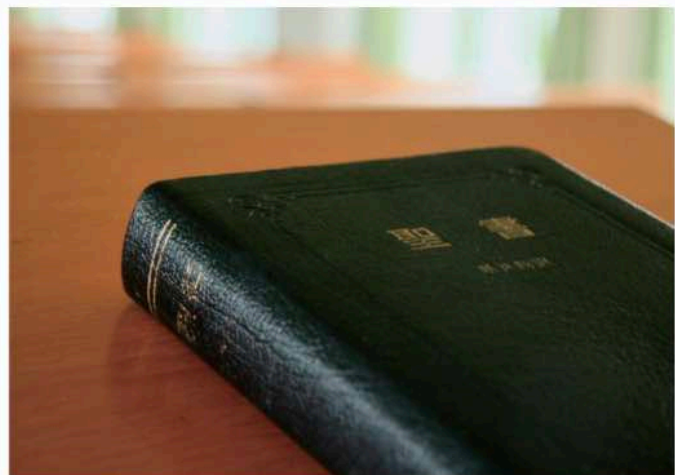


建学の精神

日本の三育教育は1898年、セブンスデー・アドベンチスト教団の最初の宣教師W.Cグレンジャーが東京芝に開いた「芝和英聖書学校」に端を発します。三育教育では、聖書に示されている身体と知性と霊性の調和のとれた人間像の回復を目指しています。そして、神をすべての価値の源として探求し、自己と他者の尊厳を重んじ、より良い社会の形成を目指し、それに貢献できる人物を育成することを、私たちは目指しています。

「世界で最も欠乏しているものは人物である。それは売買されない人、魂の奥底から真実で、正直な人、罪を罪と呼ぶのに恐れのない人、磁石の針が南北を指示して変わらないように、良心が義務に忠実な人、天が落ちかかるうとも、正しいことのために立つ人、そういう人である。」

エレン・G・ホワイト著『教育』より





本校の教育目標

本校では、教育目標として、子どもたちが「幸せ」を作り出し、人の喜びのために喜んで奉仕できる人物になって欲しいと願い、「幸せ教育」を掲げています。「幸せ」を作り出すために、本校では「不便」「不自由」「不足」な環境で教育活動を行っています。子どもたちにとっては、こうした環境は決して望ましいものではないかもしれませんが、しかし、その状況下に置かれた子どもたちは、自分の持てる力で最大限に工夫し始めます。そして、何もない状況から物事を生み出す力を身につけていきます。そして、そこで生み出されたものを人と分かち合うことで喜びを感じていきます。ですから、あらゆる場面でこの苦勞する仕掛けを作っていくということこそが人間教育の中核なのです。愛する子どもたちには「楽をする」ことではなく、「楽にする」工夫を学ばせたい。本校で行っている「寮教育」や「労作教育」の目的はここにあります。私たちは、この姿勢を身につけることこそが、これからの不確実な時代を生き抜くために必要な力になると考えています。私たちは、全ての教育活動を通して、神に愛され、人を愛する人物の育成を目指しています。

三育中学・高等学校の教育方針と特色

✦ 三育の中高6年一貫教育体制

三育では、本校だけではなく、北浦（2020年に千葉へ移転予定）、広島と合わせて3中学と広島三育学院高等学校による変則的な6年一貫教育を行っています。これにより、各自が責任ある役割を担うなど中学単独の利点と、学習における合理性などの一貫教育の利点の両方の特長を併せ持つ教育を実現することが可能となっています。少しずつ個性に色のある三つの中学校が高校で混じり合い、1校単独では醸し出せない深みが高校の学びと生活の場に生まれています。

✦ 教育相談—随時

私たちは子どもたちが抱える諸問題の原因の多くが、現代の教育環境（家庭・学校）にあると考えています。小学生の家庭教育や進学についての悩みやご相談に、出来る限り対応させていただいております。本校を志望するしないに関わりなく、お気軽にご相談ください。



[三育教育とは]



日本で初めて知・徳・体の「三育教育」を掲げたのは、
本校の前身である日本三育学院で、
約90年もの歴史の中で本質を変えずに磨き上げられてきました。

「知育」は単なる学力に留まらず、

「徳育」は生きる意味と生き方の学びであり、

「体育」は大切な心と体の健康を養成

これらの意味を、様々な体験や寮生活を通して学び、
生徒個々の消え去らない宝として、根付かせているのです。



[知育教育]

ひとり一人の心と個性を大切に
した指導と、自分で考える場
面を多く与えることによっ
て物事の本質を見極める
知恵と発展的な学力を
培います。



国際理解を含む 実践的英語力の養成

急速な国際化が進む社会状況に対応して、キリスト教を土台とした真の国際理解の促進と、スキルとしての実践的英語力の養成に特に力を注いでいます。



様々な学習

寮生活の特色を生かし、夜7時から9時までの2時間を自習時間と定め、教員の監督のもと、全員が予習復習に取り組めます。進路を後押しする「自学自習」の姿勢を身につけます。



細やかな指導を 実現する少人数体制

少人数の指導体制で学習における個々のケアに努めています。「考えさせる指導」を行うことで、目標を見据え、それに向かって努力することの大切さを生徒たちは学んでいきます。



The Education of Chracter

[徳育教育]

三育では、聖書を中心としたキリスト教教育を行っています。24時間を通して教師や友と触れ合い、互いを尊重し、愛する心を育てます。



朝夕の礼拝と聖書の学び

本校では、毎朝、毎夕、各寮ごとに礼拝が行われ、授業では週3時間の聖書の時間が組み込まれており、その学びを通して正しい生き方や価値観を身につけていきます。



盛んな音楽活動

聖歌隊やハンドベルクワイア、ブラスバンド等の活動や、1年を通して県内にある教会での音楽奉仕、クリスマスコンサート等、活動・発表の機会も多く持たれています。



自然体験活動

沖縄の自然はキャンパスの風景の一部であり、美しい海と亜熱帯のジャングルに囲まれる恵まれた自然環境は、沖縄三育だけの特権です。都会では味わえない貴重な体験が待っています。



The Education of Health

[体育(健康)教育]

健康な心身を作り正しい生活習慣を養成し、全寮制の環境に身を置き、規律正しい生活と充実した生活で心の健康を育みます。



卵乳菜食による最適な食事

母体であるセブンスデー・アドベンチスト教会の提唱する穀菜食に卵と牛乳等の乳製品を加えた卵乳菜食を取り入れています。毎日規則正しく食事を摂り、正しい食習慣が身につくように指導しています。



規則正しい生活と運動

全員が運動クラブに所属し、体育祭・バレーボールやマラソン大会などのスポーツイベントを多数設けて健康教育を行っています。6時起床、9時半消灯の規則正しい生活が心身を整えます。



心と身体のケア

看護師資格のある教諭が健康状態を把握し、最適な処置が行えるよう、近隣や系列のアドベンチストメディカルセンターと特別な関係を結んでいます。またスタッフの中に牧師がいてカウンセリング等で心のケアにも努めています。



[寮教育 (ボーディングスクール)]

「ボーディングスクール」とは全寮制学校の事です。生徒と教師が同じキャンパスで寝食を共にし、一人ひとりの成長を多角度から支え、見守ります。

本校には、日本全国、そして海外の様々な地域から生徒が集まっています。それは、新しい価値観との出会いのチャンスとなります。最初から上手くいくことはありません。驚きや戸惑いの連続です。しかし、集団生活の中でグループをまとめ、正しい方向へ導く経験が、主体的に物事を考える力や問題解決能力を養い、コミュニケーション力を向上させます。本校では「勉学に勤しむ学校」と「生活の場である寮」、全ての活動を通してキリスト教に基づいた教育を行っています。



うちの子にはまだ早い?

「小学校を卒業したての子どもが親元を離れて生活するなんて、早すぎるのではないか」そう思われる方が多数いらっしゃると思います。しかし、昔のことわざ通り「鉄は熱いうちに打て」です。この時期の子どもたちの知識の吸収力というのは、大人の想像をはるかに超えています。もちろん勉学だけではなく、スポーツや生活に関わるすべてのことにおいて、この中学校時代というのは飛躍的な進歩を遂げる時期なのです。



[寮生活が教えてくれること]

「だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、
あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。」
この言葉は僕の通っていた三育小学校の校訓でした。この言葉は、寮生活をしてい
く中でとても大切だと思います。

共に生活しながら仲間同士で支え合える経験。それを通してたくさんの「幸せ」が
生まれるのです。この経験がこれからの将来、きっと役に立つのだと思います。寮生
活は他にも色々な事を教えてくれます。

ルームメイトと話す時間は、学年を越えたコミュニケーション能力を養ってくれます。
仲間と支え合って過ごしていく日々は、仲間の大切さ、側にいてくれることのありがた
さを教えてくれます。

まだ入学して2ヶ月半しか経っていませんが、これからの生活が、より意味あるもの
となるよう過ごしていきたいと思います。寮生活、最高ー！！

(2018年度入学 1年男子)

私は今、中学2年生です。私が「沖縄三育中学校のここが好きだな」と思うところは
色々あります。「寮生活」もその中の一つです。寮では、掃除や洗濯等、身の回りの事
は自分でやらなくてはなりません。私は入学して自分でやってみて、初めて親の気持ち
や大変さを知りました。そして、「やっぱりお父さん、お母さんはすごいんだ」と改めて
尊敬しました。それからは、休みで家に帰った時はお手伝いをするようにしています。

また、寮生活だと洗濯物を干すのが速くなったり、洋服をきれいにたためるようにな
ったりするので、将来自立する時に、ここで学んだ事を活かせると思います。

寮生活で得られる最も大きい宝物は、「友達との絆」だと思います。朝起きてから
夜寝るまで、ずっと友達とられるのはとても嬉しいことですが、良い関係がずっと続
くわけではありません。ケンカや、少し気まづくなってしまうことももちろんあります。
でも、そういう環境だからこそ、もっとお互いの事を知れて、とても良い友達になっ
ていけるのだと思います。

(2017年度入学 2年女子)

[クラブ活動]

運動クラブ

- ・ サッカー部
- ・ バスケットボール部
- ・ バレー部
- ・ バドミントン部
- ・ 野球部



文化クラブ

- ・ 吹奏楽部
- ・ ハンドベル部
- ・ アート部
- ・ 野外活動部



サバスアクティビティー

(土曜日午後の活動)

- ・ 聖歌隊
- ・ アウトリーチ
(伝道活動)
- ・ 野外活動部 など



A Day at Okinawa San-iku Junior High School

どこよりも楽しく!

6:00AM | 起床

夏冬変わらず起床は毎朝6時。夏の早朝は気持ちがよさそうだが、冬はまだ暗い中、眠い目をこすりながら、点呼に起き出す。「最初はチョットつらかったけど、毎日のことだからすぐに慣れちゃいます。」とは4月に入学したばかりの1年生。まどろむ暇なく、起床から僅か10分で洗面・着替えを済ませて朝の礼拝に全員勢ぞろい。讃美歌と祈りで1日が始まる。

6:15AM | 朝礼拝 6:30AM | 朝食

部屋ごと、あるいは友達同士で食堂に向かう頃には、もう完全な活動モード。冗談を言い合ったり、ふざけあったり、中には食堂に向かって猛ダッシュする強者まで。決められた食事以外、特別な場合を除いては間食は一切ないため、朝から食欲も旺盛。食事は肉・魚一切なしの卵乳菜食。豆腐やひじき、豆類といった身体によさそうなものが、食卓にならぶ。



8:00AM | 授業開始

午前中の授業時間は、月曜～金曜までが5限。土曜日を安息日(礼拝日)としている関係で日曜日にも授業や特別プログラムが組み入れられている。1クラス25人前後という少人数編成のため、誰もがお客さんではられない。ここで聞いて、しっかり理解していないと宿題にもてこずることになる。独自のカリキュラムでバランスの良い学習を行っている。



12:35AM | 昼食

午前中ラストの授業。実験はおもしろいけれど、そろそろお腹が鳴り出す頃だ。チャイムとともに食堂!と思いきや、みんなは意外と優雅。昼休みが70分とゆったり取られているため、焦る必要もないのだろう。名護湾を眼下に見下ろしながら、心地よい風の吹き抜けるテラスが昼食の人気スポット。この日の昼食はグルカツとポテトサラダ。お肉の代わりに小麦タンパクを使った自家製グルテンミートが使われている。これがなかなかイケル!

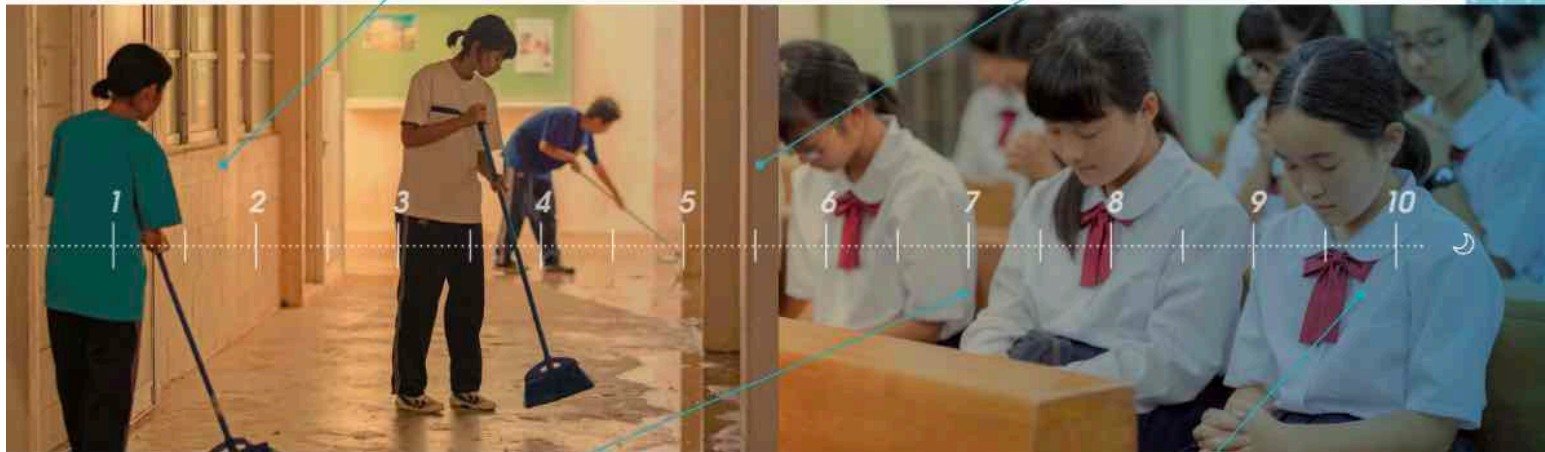
充実した沖縄三育の1日

1:45PM | 午後の授業開始

月～木の午後は授業の後に運動クラブや文化クラブや労作、班農業が行われる。金曜日の午後は、ホームルーム後に特別清掃の時間。その中でも、労作の時間では校内の草刈りや、公道の清掃、花壇の手入れ、寮の清掃など。だから三育の卒業生たちは勤労体験が豊富で、社会に出ても困らないのだ。きれいになったグラウンドや校舎、あるいは芽を出し始めた作物のある畑といった様々な労作の成果が、汗を流した者だけに感じられる特別な喜びと満足を与えてくれる。

5:30PM | 夕食 6:30PM | 夕礼拝

お風呂に入り、夕食を食べた後は夕礼拝。寮の夕礼拝では聖書の話を読んだり、自分でメッセージを考えたりして生徒の役員が担当する。人前で話す機会が多く、それは他の学校ではなかなか得られない貴重な経験として、後で大きく生きてくる。



7:00PM | 自習時間

7時からの2時間は夜の学習時間。目的や自習態度のレベルに合わせて各教室に分かれて黙学。一人一人が自分の力に合わせて学習計画を立てて取り組み、必要に応じて教師の指導を受けることができる。また公文など、基礎学力を補うプログラムも用意されている。2時間後の9時には寮に帰り、就寝の準備。1日の心残りをやりつくさんばかりに、喧騒と活気が寮内に沸き起こる。友達の部屋を訪問したり、家に電話をかけたりと消灯前の楽しいひとときが、それぞれに過ぎていく。



9:30PM | 消灯

喧騒の30分が終われば消灯時間。電気が消え、静まり返った寮内。実は、ここからがまた寮ならではの時間なのだ。眠りに落ちるしばしの間。時にはベッドに横になりながら部屋の中で交わされる先輩との様々な会話。将来の事や友情について真剣な話を交わしながら眠りに落ちていく。生徒たちが寝入ったころ、舎監やモニター（舎監補佐）が各部屋を見回り一人一人の寝顔を見ながらその一日にあったことを振り返る。とにもかくにも沖縄三育の楽しく濃密な1日が、こうして幕を下ろす。



4月/入学式

初めての寮生活にドキドキしながらも上級生の温かい歓迎を受けて一安心。



5月/ネイチャーキャンプ(1・2年生)

やんばるの海や山の自然を堪能しながら一泊することによって大きく成長します。



5月/修学旅行(3年生)

浅草、鎌倉、ディズニーランド等を訪れて見聞を広げたり、仲間との思い出作り。



6月/祈祷週

牧師先生のお話をシリーズで伺い、お祈りを通して信仰心を養う1週間。



7月/夏期講習(3年生)

主要科目を集中的に学び、受験勉強に対する気持ちを更に本気モードへ。



9月/校外学習

学年別に様々な施設を訪問し、平和学習や、沖縄の伝統文化を学ぶ貴重な一日。



10月/体育祭

紅白や学年対抗で競技に汗を流したり応援したり、保護者も参加して盛り上がります。



11月/バレーボール大会

名護市の体育館を借りてチーム毎の熱戦が繰り広げられます。



12月/クリスマスコンサート

県内の教会、ショッピングモールなどでクリスマスの調べを演奏し、多くの方に喜ばれています。



2月/ウォークラリー

小グループに分かれてクイズを解きながら自然散策して楽しめます。



3月/卒業式

献身会、卒業礼拝、そして卒業式と三育生活の集大成があります。

School Event

[年間行事]

一年を通して行われるさまざまな行事。
学校生活を彩り、生涯の思い出となります。

4月 April

- ・入学式
- ・教研式テスト
- ・ソフトボール大会
(新入生歓迎プログラム)

5月 May

- ・中間休み
- ・中間テスト
- ・修学旅行(3年生)
- ・ネイチャーキャンプ
(1、2年生)

6月 June

- ・春の祈祷週
- ・授業参観
- ・広島三育学院見学ツアー
- ・オープンキャンパス

7月 July

- ・期末テスト
- ・部屋替え
- ・ホームルームパーティー
- ・終業式・帰省
- ・夏期講習(勉強合宿・3年生)

8月 August

- ・三育合同勉強会

9月 September

- ・始業式
- ・奉仕作業日
- ・校外学習
- ・オープンハウス
- ・広島三育学院紹介プログラム

10月 October

- ・中間テスト
- ・体育祭
- ・中間休み
- ・秋の祈祷週
- ・マラソン大会
- ・オープンキャンパス

11月 November

- ・学習発表会
- ・ピアノ発表会
- ・バレーボール大会
- ・AO・推薦入試

12月 December

- ・期末テスト
- ・部屋替え
- ・終業式
- ・クリスマスコンサート

1月 January

- ・始業式
- ・入学試験(前期)
- ・卒業祈祷週

2月 February

- ・ウォークラリー
- ・卒業コンサート
- ・入試(後期)
- ・3年期末テスト

3月 March

- ・卒業献身会
- ・卒業礼拝
- ・卒業式
- ・1、2年期末テスト
- ・終業式、帰省

[進学・進路]

同じ教育理念を掲げる系列校の広島三育学院高等学校、そしてその先にある三育教育機関への進学をお勧めしています。また、一人一人の能力や個性を活かすことのできる進路を確実にするために必要な学力と人間力を養い、進路選択の幅を広げます。社会に出た時にはどの分野に限らず、神に仕え人に奉仕する人材となることを期待しています。



世界に広がる三育教育ネットワーク

学校法人三育学院は、全世界に初等中等教育機関8,350校、高等教育機関114校を有する世界第2位のグローバル教育組織「アドベンチスト教育ネットワーク」に属しており、系列校との国境を越えた交流も盛んに行われています。三育と同じ教育理念に基づいて教育を実践している系列校は全世界に広がっています。私たち三育では、これらの系列各校と交流を行うと

ともに、高等学校卒業の大きな進学先として位置付けています。米国を始めとした系列大学には、メディカルスクールやビジネススクール等の専門教育機関や、大学院までを擁したところも数多くあり、国際化の時代における理想的な高等教育の場として、注目が集まっています。

高等学校



広島三育学院高等学校

(総合文理・数理科学・国際英語コース)

〒729-1493 広島県三原市大和町下徳良296-2
TEL.0847-33-0311 FAX.0847-33-1451

専門学校・大学



三育学院カレッジ

(神学科2年コース・4年コース / キリスト教教育学科)

三育学院大学

(看護学部看護学科 看護師・保健師)

〒298-0297 千葉県夷隅郡大多喜町久我原1500
TEL.0470-84-0111 FAX.0470-84-0076



[卒業生メッセージ]



せなが だいき
瀬長 大輝

プロフィール

- 沖縄三育中学校卒業(第59回生)
- 広島三育学院高等学校卒業
- 琉球大学工学部
工学科建築学コース在学

私は地元の公立小学校から進学し、中学高校と三育で学び、今に至ります。中学時代で思い出すことは、あの友達と山道を散歩した、ペランダで星を眺めていつまでも話した、あの先生の家で焼いたマシュマロが美味しかった、一緒にグランドの芝を刈って汗を流したというような経験ばかりです。三育で学んだことを思えばきりがないほど浮かびますが、私の中で自信を持って言えるのは、ここで「自分で考え実行する力」を培ったことが今の自分を形作っているということです。

昨今の風潮としてあるのは、中学生からスマートフォンを持ち歩き、様々な情報が簡単に手に入る反面でそれらを過信してしまい、自ら考える機会が自然と失われてしまっている現状です。また、家族や友達と互いに腹を割って話す機会は減少の傾向にあると思います。そのような中でこの沖縄三育中学校は名護湾を望む自然に囲まれた環境にあり、全寮制のため友達や先生とは24時間顔を合わさざるを得ません。決まったスケジュールはありますが、隙間の時間で部屋の掃除・洗濯などの身の回りのことをこなさなければなりません。これまで両親に頼っていただけに、自分ですることによって親の苦勞を知り、親に対する感謝の気持ちを持つことができました。寝食を共にしながら友達とは長く付き合うので、人間関係も試行錯誤してそれぞれが学んでいきます。三育の友達は生涯の友達というのは、卒業生の間でしばしば使われる言い回しです。このような経験は三育ならではの感覚を感じています。

私は現在、大学で建築の勉強をしています。高校で得た価値観、現役で大学に入れたこと、中学から考えていた建築の勉強ができていたこと、全てはこの沖縄三育中学校で学んだことが礎となっていると確信しています。将来、子や孫を持つようになった時は迷わず入学させたいとは思っています。



しまぶくろ こずえ
島袋 梢

プロフィール

- 沖縄三育中学校卒業(第37回生)
- 沖縄県立球陽高等学校在学中に学校県人材育成財団奨学金を受けて渡米。
- カルフォルニア州のロマリダ大学医学部卒業。
- 2011年東日本大震災で小児レスキュー隊として被災地に赴き、その後カルフォルニアと日本の小児災害予防医療に貢献。ロマリダ大学付属こども病院準助教授、兼、ロマリダ大学付属ホワイトメモリアル小児病院メディカルディレクター。
- 現在はGuam Memorial Hospitalの副院長、小児集中治療医。

沖縄三育中学校での思い出はいくつもあります。三育ならではの思い出が多く、キャンパスにいるイモリを何匹も集めて、教室の水槽で飼ったこともありました。100匹を目標に集めていたので、水槽内でうごめく音がうるさく、授業中にイモリの音しか聞こえないと言われたこともありました。その中でも強く印象に残っているのが、先生との出会いでした。

当時、私にとっては友達が何よりも大事でした。ある時、友人に対する指導に納得がいかず、舎監の先生に反抗したことがありました。しかし、そんな私に先生はこう声をかけてくださいました。「こずえさんは優しいから、友人のために怒ることが出来るんですよ。賢いから、反抗するんです。」自分に反抗した生徒に対して、こんな風に語ることができるものなのかと、ハッとしました。当時の校長先生にも本当に頭が上がりません。問題の多かった私に諦めずに指導していただき、医師になりたいという夢を持つ私の背中を押してくれました。三育で学ばなければ、今の自分はないと心から思います。

現在、医師として働く中で心に留めている聖書の言葉があります。「あなたは口のきけない者のために、また、すべての不幸な人の訴えのために、口を開け。口を開いて、正しくさばぎ、悩んでいる人や貧しい者の権利を守れ」(箴言31編8節、9節)。真の強さと賢さというのは、虐げられている人のために働くことなのだ、先生方は体を張って教えてくださいました。私もグアムの子供たちのため、救える命を救うために、働いていきたいと心から願っています。

今の子供達には、自分だけの夢をあきらめないことが大事だということを伝えたいです。一人一人やりたいこと、できることがユニークで、その人の夢はその人だけのものです。勉強できようができまいが、やりたいことを追いかけてください。

History
[沿革]

- ・1954年5月 那覇市首里赤平に沖縄ミッション中学校として開校
- ・1957年4月 佐敷村下代原へ移転 三育小学校と併設
- ・1969年6月 現在の名護市旭川に移転 全寮制実施
- ・2014年5月 創立60周年を迎える
- ・2018年4月 法人沖縄三育学院から三育学院へ改組
- ・2019年6月 名護市に移転して50年の節目を迎える



1969年 名護に移転・開校当時の教職員と生徒



1969年 名護に移転・開校当時のキャンパス風景



1969年 名護に移転・開校当時のキャンパス風景



1983年 新校舎・チャペル完成

[創立]

戦後まもない1950年（昭和25年）、アメリカから派遣された宣教師E・Eジェンソン牧師家族は、ただちに情熱的に宣教を開始しました。そして翌年には150名収容の首里教会を完成したのです。宣教・教育・奉仕をモットーとする教会は、次に学校教育に向けて準備を進めました。

当時、沖縄には私立学校はなく、琉球政府から学校設立の認可を得ることは容易ではありませんでした。しかし、神の導きによって、1953年（昭和28年）、ついに沖縄で私立第1号として佐敷小学校（現・沖縄三育小学校）が開校しました。教師1名、生徒は9名からのスタートでした。

最初の教師は、公立中学校の教師だった大城トヨ子です。戦後、教育に空しさを覚えていたとき、たまたま沖縄を訪問した三育学院院長R・S・モーアから「クリスチャン教育について学んでみませんか」と勧められたのがきっかけです。大城は、人間教育という高い教育目標に心を打たれ、中学校を退職し、二人の子供を沖縄に残したまま、単身で千葉の三育学院に向かいました。まだ学校認可が下りていないときのことで。そして、卒業と時を同じくして、学校設立の認可がおりたことは、まさに「神の山に備えあり」で、神のご臨在を強く印象づけるものとなりました。

小学校設立の翌年、1954年（昭和29年）には首里教会内に沖縄ミッション中学校（現・沖縄三育中学校）を教師2名、生徒21名で開校しました。

今まで、教師をはじめ、沖縄全島の熱き祈りと支援によって「神様の建てられた学校」として60年以上教育活動を続けることができました。今後も、学校は教会・保護者・同窓生とがっちりスクラムを組んで、主イエスに対する信仰を高く掲げ、「キリストに会う幸せ」を体現することが出来るように邁進したいと願っています。